

多様な生物の生息域確保のための魚道の設置等について

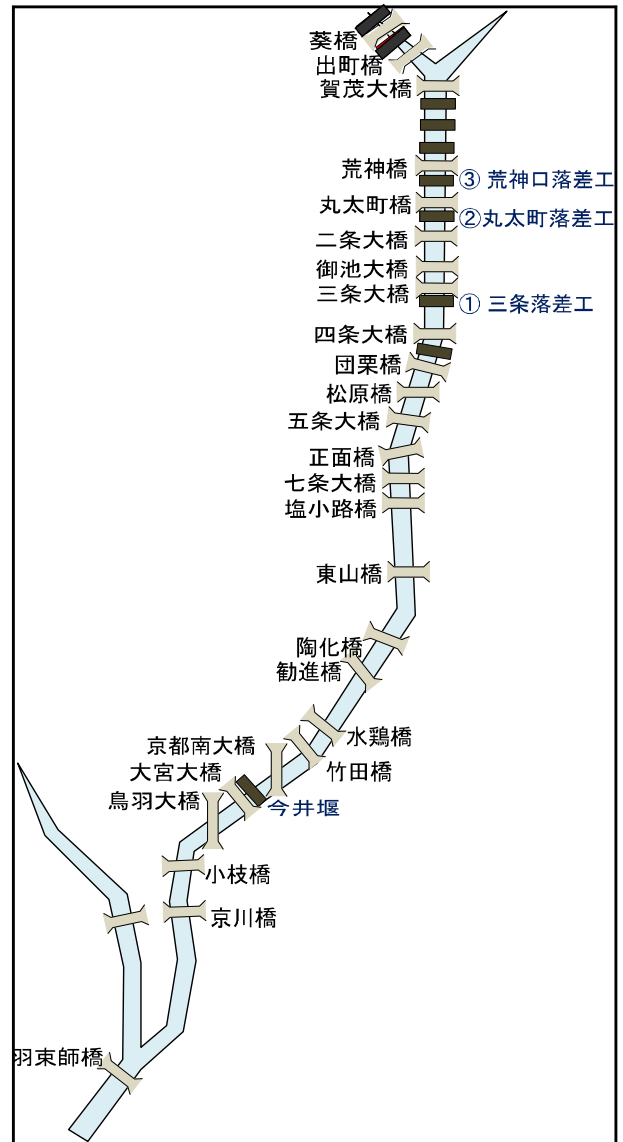
京 都 府 水 産 課

1 これまでの取組み

鴨川においては、都心部への天然アユの遡上を目指し、学識経験者、農林漁業関係団体関係者等により構成される「京の川の恵みを活かす会」により、平成23年度から障壁となっている落差工に簡易魚道を設置する取組を開始。京都府も京都市とともにこれらの取組を支援し、順次、上流に向かって設置箇所を増やしてきました。

2 今年度の取組み

令和元年度も、5月末までに、前年同様、三条・丸太町・荒神口の各落差工に簡易魚道を設置。これまでのノウハウを踏まえて、設置する簡易魚道も順次改良されており、今年も大阪湾から出町柳周辺まで天然遡上アユが到達することが期待されます。



平成30年7月、三条落差工に設置した魚道を遡上するアユ（写真左下）
（京都市提供（撮影：中筋 祐司 氏））

3 今年設置した魚道
三条（5月15日設置）



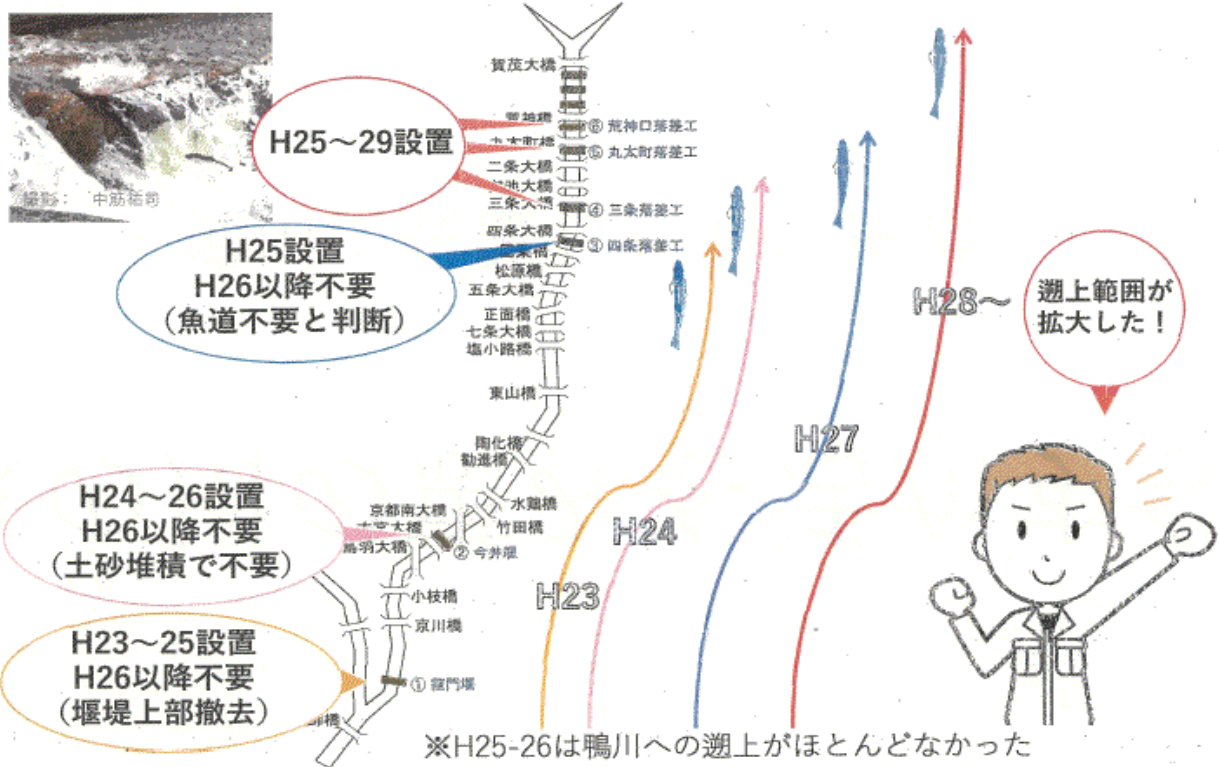
丸太町（5月29日設置）



荒神口（5月27日設置）



魚道づくりの成果 ～アユの遡上実績～

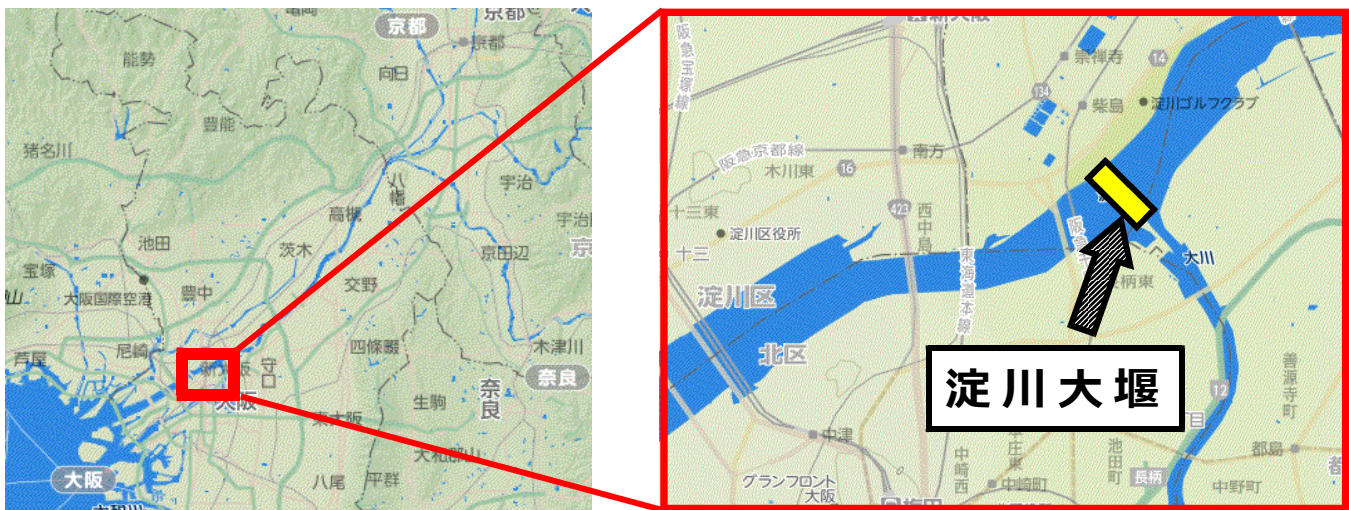
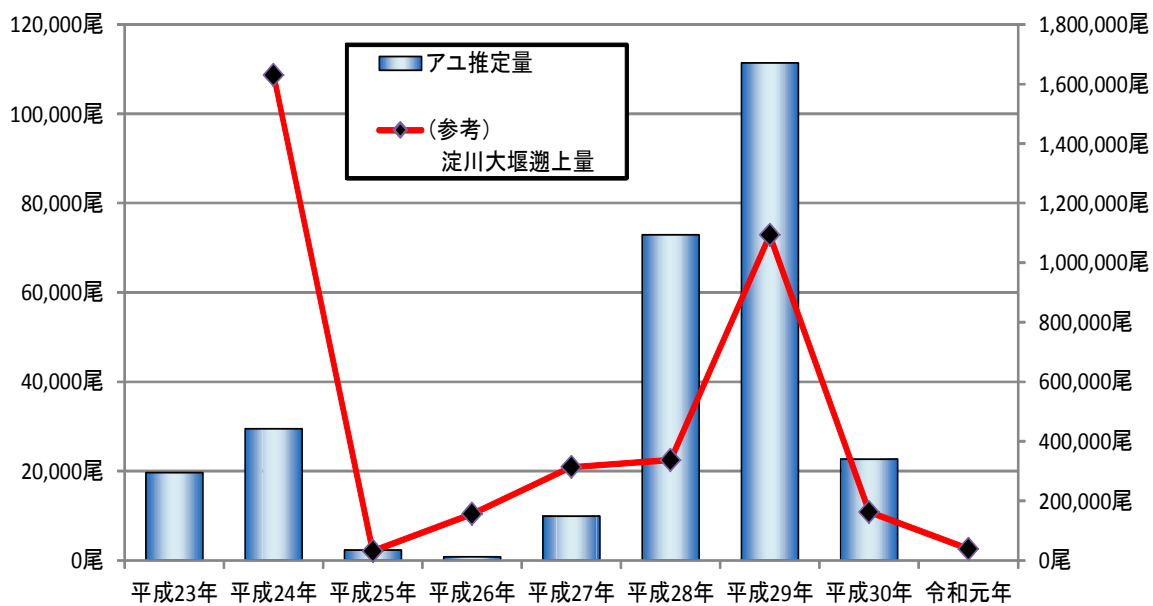


4 鴨川へのアユ遡上量

	全魚種推定量	アユ推定量	計測箇所	(参考) 淀川大堰遡上量
平成23年	21,858尾	19,672尾	龍門堰魚道	
平成24年	32,407尾	29,490尾	龍門堰魚道	1,630,249尾
平成25年	7,351尾	2,328尾	龍門堰魚道	30,706尾
平成26年	2,463尾	800尾	今井堰魚道	155,594尾
平成27年	11,595尾	9,868尾	今井堰魚道	313,479尾
平成28年	85,688尾	72,925尾	今井堰	336,454尾
平成29年	119,745尾	111,363尾	今井堰	1,093,071尾
平成30年	24,965尾	22,696尾	今井堰	162,211尾
令和元年			今井堰	38,110尾

※ 京の川の恵みを活かす会調べ。(淀川大堰遡上量は国土交通省淀川河川事務所調べ。)

※ 令和元年度の淀川大堰遡上量は5月28日までの数値。



5 天然遡上アユと地域の魅力づくり

人口約150万人を擁する大都市である京都市を貫流する鴨川は、住民や観光客が自然に親しむ憩いの場となっていますが、繁華街のほど近くで天然遡上アユの友釣りができる貴重な環境であり、鴨川の魅力の一つとなっています。

地元の上京区でも、環境保全の取り組みや魚道の設置などにより出町柳まで遡上できるようになった天然遡上アユを地域資源の一つとしてアピールし、同区などの主権によるアユ友釣り大会も開催されています。

またアユだけでなく、ハエ（オイカワ）も、鉄道唱歌にも京都みやげとして歌われ、昔から佃煮が「驚知らず」として珍重されていましたが、現在も、ハエ釣り大会が行われるなど水産資源として活用されています。

6 森里川海のつながりの回復

魚道設置のように海から川への連続性を確保する取り組みについては、平成30年3月に策定した「京都府生物多様性地域戦略」においても、行動計画の4つの柱の一つとして、「森里川海のつながりの回復による多様な生態系の保全」が掲げられています。

また、鴨川河川整備計画を受けた具体的な実施計画をとりまとめた「千年の都・鴨川清流プラン」においても、鴨川の落差工等が魚類等の遡上の支障となっているため、「魚道等の設置により、河川の縦断的な連続性を確保する」こととしています。

京都府生物多様性地域戦略

～自然の恵みを次世代につなぐ人と自然の共生プラン～

1 森里川海のつながりの回復による多様な生態系の保全

人と生物との共存を念頭に、森里川海それぞれにおける生物の生息・生育空間のつながりや配置を確保しつつ、それぞれのエリアにおいては、原生的な生息環境の保全とともに、二次的自然の適切な維持管理を進めます。

7 今後の課題

- ① 三条・丸太町・荒神口の各落差工の魚道は、毎年設置・撤去しており、その経費や労力が大きな負担となっている。

○ 京の川の恵みを活かす会による魚道設置費用

年度	費用	設置箇所
平23	753千円	2箇所 龍門堰・今井堰
24	910千円	2箇所 龍門堰・四条
25	1,020千円	5箇所 龍門堰・今井堰・三条・四条・丸太町
26	1,469千円	5箇所 龍門堰・今井堰・三条・丸太町・荒神口
27	1,163千円	4箇所 今井堰・三条・丸太町・荒神口
28	831千円	3箇所 三条・丸太町・荒神口
29	905千円	3箇所 三条・丸太町・荒神口
30	526千円	3箇所 三条・丸太町・荒神口

※ 設置作業も人力によっており、1箇所につき約20人が半日程度の作業を要する。



H30.5.1 荒神口魚道設置作業の様子

- ② 鴨川には、魚道を設置している落差工以外にも多数の落差工があるが、漁協等を中心とした民間団体である「京の川の恵みを活かす会」が更に設置箇所を増やすことは困難。

8 対応の方向性

- ① 三条・丸太町・荒神口に設置されている木製の簡易魚道は、昨年7月の豪雨・増水でも損傷しなかった（三条魚道については、損傷はしなかったものの下部が浮き上がり本来の機能を失った。）ことから、複数年の継続設置を検討。

（通年設置により、冬期におけるハエ（オイカワ）などの生息域拡大にも資するものと考えられる。）



H30.7.6



H30.7.16

撮影：中筋祐司

※ 平成30年7月豪雨により、鴨川は氾濫危険水位近くまで増水（荒神橋観測所における7月6日13時の水位2.23m（氾濫危険水位は2.30m））したが、ほとんど損傷がなかった。（上の写真は丸太町魚道の様子）

- ② 中州管理等の河川工事実施時に、併せて、河川施設として簡易な魚道の設置など縦断方向の連続性確保に配慮した施工を行うことを検討。



※ 落差工の修繕において、魚が遡上しやすい形状に配慮（賀茂川通学橋下流）



※ 葵橋上流落差工に設置した石積み（練り積み）魚道（令和5.27撮影）